

被災地忘れないで



9日、ブラジル・サンパウロで開かれた東日本大震災追悼2年の式典に参列した佐々木沙耶さん(右)と高野桜さん(中央) (共同)

ブラジルで追悼式典 佐々木さん(高³年)出席

【サンパウロ共同】さんは「偏見もあるが東日本大震災から2年となるのを前に、海外最大の日系社会があるブラジル・サンパウロの日系団体で9日、追悼式典が行われ、日系人ら約200人があらためて犠牲者の冥福を祈った。

長崎市の市民団体が選んだ「高校生平和大使」としてサンパウロを訪問中の陸前高田市の高田高3年佐々木沙耶さん(18)と福島県南相馬市出身の高校3年高野桜さん(18)も参列し、現状を説明した。除染が進まず仮設住宅暮らしを続ける高野

さんは「偏見もあるが元気に生きているし、復興に向かって頑張っているということをお忘れないで」と述べた。自宅を津波で失った佐々木さんは「被災地の現状を伝えていくのが使命。復興はまだ遠いが、温かく見守ってほしい」と力強く話した。

サンパウロ州の花弁栽培業、芳賀七郎さん(79)は宮城県南三陸町出身で、兄2人を津波で失った。芳賀さんは「2番目の兄はまだ行方不明。2人とも大好きだった。今もつらい」と話した。